

令和3年第2回  
福岡地区水道企業団議会定例会  
決算等特別委員会会議録

(令和3年8月24日開催・議案審査分)

福岡地区水道企業団議会



質疑・意見	答弁
<p>○ 人材の育成について、企業団として2020年度はどういう人材育成をしてきたのか。決算書を見ても、数字でも説明でも、書類から探せなかった。人材育成のための決算額はどこに記載されているのか。</p>	<p>△ 研修については、令和2年度、3年度はコロナでオンライン等での実施になっているので、例年より参加者が少なくなっている。</p>
<p>○ 福岡地区水道企業団の職員の皆さんも、そして、構成団体の水道関係の職員の皆さんも、安全できれいな水を必要なときに必要なだけ、できるだけ安い料金で供給することを使命として、大雨の日や台風の日でも緊急出動するなどして、水道事業の水準を維持するために頑張ってもらっていることと思う。</p> <p>そこで、水道企業団としては安定した運営の確保のためには、知識、技術、ノウハウを持ち合わせた精通した職員の確保が大事だと思うが、所見を問う。</p>	<p>△ 委員指摘のとおり、技術を持った職員が大変重要だと認識している。</p> <p>そこで、福岡地区水道企業団は福岡市からの派遣職員で主に業務を行っている、福岡市での業務において水道以外の分野も経験した知識のある職員が水道の分野でその経験を生かして取り組んでいる。また、経験のある職員が若手職員に職務を通じて技術や経験を伝える、OJTの形を活用して職員の人材育成を図っている。</p>
<p>○ 今言われたとおり、福岡市からの派遣職員に頼っており、直接雇用の正規職員はいないのではないのか。</p>	<p>△ 福岡市からの派遣職員が、令和2年度でいうと69名、それ以外に会計年度任用職員制度が令和2年度から始まって27名、それと、福岡市職員のOBで経験も豊かな知識を持つ職員が再任用短時間として8名、合計104名の体制で事業を執行している。</p>
<p>○ なぜ福岡市の派遣に頼っているのか。</p>	<p>△ 昭和48年の企業団設立当時、職員の配置については、構成団体の要望により福岡市の職員が充てられて現在に至っている。また現在、福岡市においても職員の採用、特に技術職員の採用には苦慮していると聞いている。そのような状況の中、構成団体からの派遣等は難しい。</p>
<p>○ 福岡市から派遣されることを前提にしていたら、企業団として職員の育成のプ</p>	<p>△ 委員指摘の懸念もあるが、企業団は事業の進捗に応じて柔軟に職員数を増減し</p>

質疑・意見	答弁
<p>ランが福岡市の人事異動によって狂ってしまうこともあり得ると思うが、所見を問う。</p> <p>○ 福岡市以外の構成団体からの派遣については検討した経緯はあるのか。</p> <p>○ 私の観点とは逆である。福岡市以外の構成団体における水道関係の職員というのは、どこも少数。ハンドブックの中に人数を書いているが、構成団体の中での交流には、当然ながらそういう少人数の</p>	<p>てきている。今、派遣職員は69名であるが、過去、海水淡水化施設の建設時には89名という派遣職員も在籍していた。その中で、今後の事業進捗に合わせて柔軟に職員を置き、また、一定の専門性を持つ会計年度任用職員を活用して事業運営を行いたいと思っている。</p> <p>△ ただいまの、人材育成が狂ってきてしまうのではないかという質問について、補足をさせていただく。</p> <p>ただいま説明したように、企業団の職員は福岡市から派遣されているものが大多数、69名であるが、これは市の職員ということで、一定期間企業団で業務を行った後は、また福岡市に戻って業務を行っていく。広い範囲では福岡市の中での人材育成ということで、当然、年次的な研修や、昇任関係なども企業団は福岡市の一部と位置付けられて行われているので、人材育成が狂ってしまうということはない。</p> <p>△ これまで構成団体の方々とは各種会議で直接お話しする機会もあり、各構成団体において人材不足等の話も聞いている。直接公式に問合せたことはないが、この職員採用が厳しい時代において、各構成団体においても企業団に職員を出すというところは大変厳しいのではないかと認識している。</p> <p>△ 現在、構成団体の職員の方々とは様々な研修を通じた人材育成で連携を図っている。派遣という形ではなく、研修等で相互の人材育成を図り、連携を深めて、都市圏として用水供給を安定的に行う立</p>

質疑・意見	答弁
<p>水道局の職員だけでは限界がある。</p> <p>そこで、福岡地区水道企業団の福岡市からの派遣に依存する体質をやめて、各構成団体からの派遣も行い、数年単位で人事交流を行うことも検討すべきだと思いが、所見を問う。</p> <p>○ 福岡市の職員以外には企業団の事業を見せたくないという狙いもあるのか。</p> <p>○ 企業団が福岡市の身の丈に合わない開発戦略の土台を支えるために、高い水を作って都市圏の構成団体を買わせている実態を知られたくない思いがあるのかと今聞いていて思った。やはり一時的な研修だけでは駄目。都市圏の構成団体の中に技術と知識と能力を兼ね備えたスペシャリストの育成ということを企業団が支援していくことも必要ではないか。それが信頼関係と連携を強めることになるのではないかと思う。</p> <p>水道事業というのは、ほかの公務員の仕事と異なり、手続事務で完結しない。住民の手元に水を届けることで完結する。そこまでするためには、常日頃から安全できれいな水をいつでも必要なだけ供給しなければならないし、消毒して圧力かけて密閉状態で届け切るために、取水、浄水、配水、給水の各工程で施設と器具などのハードを整備し、それを動かす人的配置が必要になってくる。</p> <p>技術力といつも言うが、それは現場によって異なってくると思う。小さな水道</p>	<p>場を進めていきたい。</p> <p>△ 企業団の事業については、年度当初に各ブロックに出向いて事業内容を説明するブロック会議を開催したり、日頃から事業内容について連携を深め、情報提供や向こうの情報もいただいて、課題の共有もしているのでは、そのようなことはないかと認識している。</p> <p>△ 都市圏に水を安定的に供給する、そのために技術力の継承が大事であるということは全く同感である。ただ、構成団体のそれぞれに技術者がふんだんにいるかというと、全くそうではない。なおかつ、日本全国から見たときに技術者が足りてない。そういう状況がある中で、我々企業団が何をやるか、それは非常に考えている。</p> <p>例えば、今回、追加資料ということで出させていただいた「資料2-補足」で、今後検討する強化策というのを提案させていただいた。多分、構成団体の皆様にとっては、委員が言われたように、企業団に来て勉強するのも一つの形だと思う。我々は施設を閉ざしていない。牛頸浄水場も海水淡水化センターも、いつでも皆様に見ていただくということでやっている。オープンにしている。その中で、構成団体の皆さんが少しでも助かるように、例えば、ここで提案しているように、構成団体の配水場と浄水場で水を混ぜたりする、その状況を牛頸浄水場</p>

質疑・意見	答弁
<p>事業体と大きな水道事業体では技術そのものの在り方が違ってくる。例えば、浄水場施設で小さな構成団体職員が勤められないようなところでも、牛頸のような大型浄水場で勤務すれば、技術力も自然と大きく変わってくるかと思う。人材と技術力を福岡都市圏全体で考えるべきだと思うが、この問題の最後に、この点の所見を問う。</p> <p>○ 福岡市の企業団ではなく福岡都市圏の企業団なので、人材の件についても私の提案したことについて、今後また検討の余地があれば検討していただきたい。</p> <p>○ 昨日の本会議で、そもそも海水淡水化センターなどを造り出した動機が福岡県水資源総合利用計画だと申し上げた。これを初めとして、水需要の皮算用についてただしていきたい。 まず、1996年、平成8年に策定したこの計画とはどういうものか。</p> <p>○ その目標年次の2010年の福岡都市圏の需要水量は日量幾らと計画を立てたのか。</p> <p>○ では、2020年決算で福岡地区水道企業団の供給水量は日量幾らか。</p> <p>○ これに構成団体の自己水源を加えると、日量幾らか。</p>	<p>で全部見れるようにする。そういったことをやったりするのも効果的ではないかということを考えている。</p> <p>今、コロナ禍で構成団体の皆さんと本当に膝突き合わせての議論が正直なところ難しい。ただ、今回7月に開催した運営協議会でも、我々は構成団体の皆様に貢献できる技術強化の一環として、ここに書いている今後検討する強化策、こういったことをやっていきたいし、そちらに経営資源を回していくことも考えていきたいという提案をした。せっかくの機会なので、企業団としての見解とさせていただきます。</p> <p>△ 福岡県水資源総合利用計画第4次の件かと思うが、これは平成8年6月に福岡県において、今後の福岡県の水資源の総合利用計画ということで福岡県全体の水利用についてまとめられたもので、目標年次を平成22年、2010年として水の総合的な利用計画を立てられたものである。</p> <p>△ この福岡県水資源総合利用計画において、日最大需要水量は102万3,000トンとなっている。</p> <p>△ 令和2年度決算の当企業団の日水量は、24万7,043立方メートルになっている。</p> <p>△ 各構成団体の決算値はまだ出ていないので、令和元年度の日平均給水水量でお</p>

質疑・意見	答弁
<p>○ 県が出している計画では、もともと102万3,000立方メートルだった。現状は24万と63万を足すから、合わせて87万7,000立方メートルという状況だと思うが、この102万3,000立方メートルに対して、水は今足りているのか。</p> <p>○ そうすると、現在から見れば、この日量102万3,000立方メートルというのは大き過ぎた目標だったと言えるのではないかと思うが、所見を問う。</p> <p>○ 見直されたということは、大きいということを知ったから見直したと思うが、この大きい数値の目標のときにつくったのが今のダム計画であり、巨大な海水淡水化センターを造る計画だった。こんな大きい計画を立てたことについて、福岡地区水道企業団としては現時点ではどう考えているのか。</p> <p>○ 常々あなた方は、計画では都市圏の人口がどんどん増えていく、将来の社会経済の動向などを踏まえて予測したと言っているが、人口が増えたら水需要はどれだけ増えるかという、実はそんなに増えない。福岡市でどうなっているか数値</p>	<p>答えるが、各構成団体において63万3,246立方メートルとなっている。</p> <p>△ まず、この水資源総合利用計画の後に福岡地域広域的水道整備計画が平成9年に立てられており、またその後、福岡地域広域的水道計画が平成18年に見直されている。そういった計画の変遷があるが、そういう計画に基づき水源開発を行った結果、現在、安定した供給が行われているものである。</p> <p>△ 平成8年の福岡県水資源総合利用計画については、当時の人口推計等に基づいて計算されたものと認識している。計画は年次によって見直されており、先ほど述べたように、福岡地域広域的水道整備計画によって計画が見直されている。</p> <p>△ 水源開発については、計画に基づき開発を行ってきたものである。そして、計画を進めるに当たっては、現状の水利用等を勘案しながら整備を進めている。現在の水利用については約63万3,000トンとなっているが、施設能力に対する日平均給水量の割合である施設利用率については、都市圏全体で57.8%となっている。これは全国平均60%ということに比べても、全国平均レベルとなっており、水資源に乏しい都市圏において水道水の安定供給のために計画的に水源開発を行ってきたということである。</p> <p>△ 計画に基づいてやっているが、当然、水の使用量、こういったものを勘案しながら、各構成団体、企業団ともに水源開発を行ってきている。</p>

質疑・意見	答弁
<p>を調べてみると、2001年の人口は135万人、2019年は159万人、1.17倍になっている。ところが、1日の平均給水量はどうだったかという、2001年は40万570立方メートル、2019年は41万1,168立方メートル、つまり1.02倍である。あなた方は都市圏の人口が増えるから水の需要が増えると言いつけてきているが、福岡地区水道企業団の56%の水を受水している福岡市が、1.17倍の人口増に対して1.02倍しか水の需要は増えていない。人口が増えた分と同じ割合では水は必要ない。これについてはどう思うのか。</p> <p>○ 単なる希望的観測というか、右肩上がりの社会構造、そういったことを前提にして導いていくな、間違った水需要と対応の仕方になってくると思う。人口が増える、または渇水の対策が要る、そんなことを前提にあらゆることを考えていけば、ダムを幾つ造ったって足りないし、海水淡水化センターだって2つも3つも要ることになる。</p> <p>あなた方の巨大施設必要論というのは、そういう脆弱な根拠の下で、適当な数値の中で行ってきている計画の中で推進をしていき、その推進のための後づけ的な、いわゆる天候の問題であるとか、今の耐震化の問題であるとかをつけ足しているにすぎないというふうに私は見るが、所見を問う。</p>	<p>答弁</p> <p>△ 水源開発については、1級河川がなく水資源に乏しい福岡都市圏の水需要を勘案しながら、まずは筑後川を水源とした用水供給を行い、また、必要な水源として海水淡水化施設等を整備したものである。水の状況については、令和元年度にも海水淡水化施設のフル運転を行ったように、近年、少雨と多雨といった渇水リスクもある。また、福岡都市圏においては、国勢調査速報値でも人口増が続いており、こういった水需要、渇水対策、河川の油等の流出事故等にも対応するため、すなわち、24時間365日安定的に供給するために水源開発を行ってきたものである。</p> <p>△ 海水淡水化施設の必要性について、改めて現状を説明させていただく。</p> <p>五ヶ山ダムの供用に伴い、1日最大1万トンの供給水量が可能になった。これで、筑後川水系、那珂川水系、多々良川水系、海水淡水化施設と、4水源合わせ</p>

質疑・意見	答弁
<p>○ その点は昨日もやり取りしており、ずっとやり取りしているが平行線なので、今日はその問題には踏み込まない。</p> <p>それで、具体的に今、海水淡水化センターのことを言われて、私は廃止すればということを前提で申し上げているので、数字的なことについてきちんと私なりの意見を申し上げたい。</p> <p>昨日、本会議でも言ったように、純利益が16億4,031万円ある。ここに昨日本会議で明らかになったように、海水淡水化センターの赤字が5億8,490万円ある。この2つを足すと、22億2,521万円になる。2020年度の決算に基づいても、このお金はいわゆる給水単価を下げるために利用できるお金ということになってくる。</p> <p>そこで、私はこの22億2,521万円のうち、半分をまず、給水単価を下げるために使ったらどうかと。全部を使えと言っていない。半分を使う。これが11億1,260万5,000円になる。これを用水供給料金103億9,098万5,196円(税抜)から引く。そうすると、92億7,838万196円になる。この金額を給水単価で出</p>	<p>て31万2,800トンの水利権確保ができた。現在、我々が構成団体と約束している協定水量が日最大26万8,100トンである。</p> <p>施設能力は、海水淡水化センターの5万トン、これを含めてなので、海淡を単純に差し引くと、26万2,800トンということで、構成団体の皆様にお約束している協定水量が送れなくなるという現状がある。こういう中で、やはりこの海水淡水化施設の重要性、役割については非常に重要というふうに認識をしており、今後とも適切な維持管理、それから、コスト削減の工夫をしながらしっかりと維持していきたいと思っている。</p>

質疑・意見	答弁
<p>していけばどうなるかという、供給水量が 9,017 万 1,000 立方メートルだから、給水単価は 102 円 89 銭になって、12 円 34 銭安い水道が都市圏に配られることが前提になる。これは私の計算である。</p> <p>皆さん方はずっと、とにかく 26 万 8,100 トンという、41 年前の協定に基づく約束事をやらないといけない、それで海水淡水化センターを動かさないといけないと言われるが、今の説明でいえば、ちょっと工夫して、日量 5,300 立方メートルをカットすることができれば、海淡を動かさなくて済む。それで、その海淡を廃止すれば供給料金も安くすることができるわけだから、福岡都市圏が全体として高い水を取り扱うのに苦労していることを、具体的にそういう形で下げる努力も、また計算もしていかなければならないと思う。</p> <p>今日、私は今自分の計算でやってみて、イメージを描こうと思ってやったが、皆さん方の中ではそういった供給料金を下げるということについて、何らかの検討なり内部での分析はされているのか。</p> <p>○ 昨日から議論があり、今日も同じ人がずっと質問されている。委員長が委員会開催に先立ち言われたように、また、議長からも昨日、「要領よく簡潔に」という言葉があった。そういう中での会議の在り方を含めて、福岡市方式か私には分からないが、延々と続くものなのか。</p> <p>繰り返しになっており、私は議論は尽くされたと理解している。</p> <p>○ 委員長から見て同じことを言っているようであれば、私に対して注意をしても</p>	

質疑・意見	答弁
<p>らって構わない。しかし、私は昨日の議論の上に、角度の違う質問をしている。ご了承いただきたい。</p> <p>○ 海水淡水化センターをやめて高い用水供給料金を引き下げるのか、海淡を続けて高い用水供給料金を払い続けるのか、この判断が求められているわけだから、さっき私が出した数字のように、具体的な料金の設定の在り方の問題、将来ビジョンの問題もぜひこの福岡地区水道企業団の中で、この決算額から見て議論をしていくべきだと思うが、この問題の最後に所見を問う。</p> <p>○ 福岡地区水道企業団全体のことを考えた上で、この海水淡水化センターがネックになっているというのが私の通している意見なので、またそれは議論していきたい。</p> <p>○ 福岡地区水道企業団と構成団体との信頼関係、連携の問題についてただしていく。 福岡地区水道企業団の水源開発により、各構成団体への送水量が増加している。2001年と直近との数字で、その増加の状況についての説明を求める。</p> <p>○ この流れが構成団体に自己水源を放棄</p>	<p>△ ただいまの質問は、海水淡水化センターの必要性ということで認識をしている。海水淡水化センターについては、昨日いろいろ質疑をいただいているが、当企業団としては、構成団体の皆様に水道用水を安定して供給するということが一番重要な事項である。水道用水については、筑後川水系、多々良川水系、那珂川水系、それから、海水淡水化センターの4つの水源で必要な水量を確保しているが、企業団としては、安定して構成団体の皆様に必要な水量をお届けすることが使命である。その中で天候に左右されず、企業団で独自の運用が可能な海水淡水化センターの果たす役割というのは極めて重要なものがあり、引き続き適切な運用を図っていきたい。</p> <p>△ 2001年、構成団体における当企業団の受水割合は、全体で30.5%となっており、令和元年度は、全体で38.2%となっている。</p> <p>△ 宇美町の水道料金については、今手元</p>

質疑・意見	答弁
<p>させる状況を生み出している。とりわけ客観的に見て心配になっているのは、宇美町である。宇美町は1か月20立方メートル当たりの家庭用水料金は20ミリ口径でどうなっているか。</p> <p>○ 構成団体の水道料金については、関心もなければ責任もないということか。4,290円である。宇美町の水道料金は福岡市よりも1,000円も高く、福岡地区水道企業団の高い水を一滴も受け取っていない久山町よりは1,800円も高い。</p> <p>水道ビジョンの2018の14ページに、その推移が明確に出ているが、宇美町の2001年と2013年では企業団受水率はどうなっているか。</p> <p>○ 約4倍化している。福岡地区水道企業団への依存率が高まって、「週刊ダイヤモンド」誌の2019年全国水道ランキングでは、宇美町では1日の供給水量は8,561立方メートル、そのうち企業団受水率が6,877立方メートルとなって、とうとう依存率は8割を超えたと全国的に報道をされている。</p> <p>宇美町のこの状況について、企業団としてはどう見ているのか。</p> <p>○ 宇美町は安定的な水源を持っていた。だから、当初は水道企業団から配水される量が18%でよかった。それが76%にまでなっている。宇美町では既に2015年と比較すると、人口は減少局面に入っている。国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計では、2015年の人口を100とした場合、宇美町では2020年が97.4%、2035年は86.1%、2040年は81.7%、2045年にはとうとう77.6%になる。</p>	<p>に資料がない。</p> <p>△ 宇美町の受水割合は、2001年で18.9%、2013年で76.6%となっている。</p> <p>△ 当企業団の水源開発としては、1級水系がなく水資源に乏しい福岡都市圏において、安定的な水源開発が必要ということで、1級水系である筑後川、また海水淡水化センター等を整備し、また、各構成団体については、将来の需給計画に基づいて必要な水量について企業団と協定を結び、必要な水量を受水しているものと考えている。</p> <p>△ 論点は2つあるかと思う。</p> <p>答弁に入る前に、私ども企業団は、昨日、議長に答弁、説明は簡潔に行うというお約束をしたが、答弁が至らなかったことをおわび申し上げたい。</p> <p>まず、水量、安定供給と料金、2つについてであるが、福岡都市圏は、1級河川がないことから、筑後川から山を越えて水を持ってきている、なおかつ海水を淡水化するというをやっているの</p>

質疑・意見	答弁
<p>あなた方の計画で、ちょうど海水淡水化センターが再更新して、次の更新期を迎えるときには宇美町では人口減少が一気に進んでいる。これは宇美町のことだけではない。同研究所の人口推計では、福岡都市圏において、筑紫野市、春日市、宗像市、太宰府市、古賀市、福津市、糸島市、那珂川市、篠栗町では、2015年と比べて急激に人口が減る。独り勝ちの福岡市でも、2035年には人口減少局面に入る。この状況が分かっておきながら、今なら開発をまだ続けられると、将来の人口減少に目をつむり、渴水が来るぞとオオカミ少年になって海淡の再更新をあおる水道企業団というのは許せない。</p> <p>このままあなた方のやり方を進めていけば、都市圏の構成団体はさらに自己水源を減らしていくことになると思うが、所見を問う。</p>	<p>で、例えば、熊本みたいに水がたくさんあるところ、地下水がたくさんあってほとんど使えるようなところと比べると、当然ながら割高になっている。だからこそ、昨日もお話ししたが、常にコスト削減の意識を持ってやっていく。</p> <p>また、海水淡水化センターの必要性だが、水利権31万余持っているが、それに対して協定水量、年間で多少凸凹あるが、26万8,000トンを送っていくときに、5万トンを生産する能力がある海水淡水化センターがなければ、先ほど委員も言われたように5,300トン不足する。水は社会的、健康的な生活をしていく上で必要である。これは、一日も不可欠なインフラだと思っている。</p> <p>まして、水利権どおりに、水がいつも取れるわけではない。例えば、大雨のときに水が濁るだけで取れなくなったりする。それと、河川にどこからか油が出たとか、薬品が出た、そういうときも取水ができなくなる。なかなか目立たないが、企業団の中ではこういうことが水源や川で起こっていると取水を停止するので、そういった場合でも海水淡水化センターの水が必要となる。このように本当に不可欠である。</p> <p>例えば、都市圏の自己水源の話も出たが、自己水源でそれぞれの皆さんが浄水場をもって水を作っておられる。その浄水場のメンテをする間に、動かしながらメンテは非常にコストがかかるので、そこを止めて、例えば、企業団にその間、増水してもらえないか、協定水量より水を少し多くくれないか、そういうリクエストにも我々は応えている。それもひとえに、天候に左右されなくて水を作ることができる海水淡水化センターがあればこそだと私は理解している。</p>

質疑・意見	答弁
<p>○ 私の質問とはちょっとかみ合っていない。将来にわたって安全で良質な水道用水を安定的に供給するのは水道事業者の誇りある仕事だと思う。しかし、安定的というのは、余るほどの水を配っていいということではない。安定経営という場合、福岡地区水道企業団は構成団体の水道行政がどうなっているかについても責任と関心を持たなければならないが、それがあなた方に欠けていることが今日の質疑で明らかになった。</p> <p>○ 私の意見と要望について、意見は昨年言っているが、新しい委員さんがおられるので、ちょっと言わせていただきたいのと、要望を今日は伝えたい。</p> <p>海水淡水化センターのことで今議論が行われているが、海水淡水化が不要だという意見がある一方、今、大規模更新の委託検討が着実に進んでいるということで、このことについての考え方を申し上げたい。</p> <p>まず、水道企業団の使命は、安全で安定した、そして、安価で提供するという柱がある。渇水時に、要は異常事態のときに安定した水を確保するために海水淡水化が必要だということだと思う。ただ、矛盾することは、高いと安価で提供</p>	<p>先ほど委員からちょっと議論が長くなったということが言われたが、我々企業団側の説明が舌足らずなところがある。今、委員さん方にお話ししているようなことが事実関係としてあるので、企業団は今後ともしっかりとやっていきたいと思う。御支援、御鞭撻のほどよろしくお願ひしたい。</p> <p>△ 先ほど、どうしても海水から水を作るというのは割高だという話をしたが、分かりやすいエピソードで少しお話ししたい。海水淡水化センターは海水から水を作る工場だが、例えば、畳1畳にワンボックスカーを縦に700台乗せたぐらいの超高压で海水から海水成分を絞り出して真水を作っている、そういう工場である。非常にふんだんに水があるほかの都市圏と違って、福岡都市圏ではこういうやり方をやっているの、コスト削減はずっと突き詰めていきたいが、一定の限界があることも事実である。だから、可能な限り、ふだんは水利権の中で筑後川の水を最大限使って、ある意味、海淡を使い惜しむような運用をやっている。</p>

質疑・意見	答弁
<p>するという使命から逸脱する。少し高いということがあり、多分これが議論の対象になっていると思う。</p> <p>その中で、渇水が起きたときに節水の都市づくり、それから、水源確保、ダム開発、今回の牛頸浄水場の効率的な運営方法とかいろいろやられていると思うが、根本的に違うのは、渇水というのは水がなくなる。だから、ダムはあっても、そこに水がない。だけど、海水淡水化というのは水を生む。そこが根本的に違う。26万トンという部分からいくと5万トンだから、それだけで賄えないかもしれないが、それは人々の安心につながる。そういったことを踏まえながら、海水淡水化センターは要するという認識の下、その中で、高いものをできるだけ安価にする方法を努力したのかということ、昨年のこの議会でどういう努力をしたのか、努力すべきじゃないかということを行っている。</p> <p>それはなぜかという、海水淡水化センターが15年のメンテナンス契約が終わって、それから一昨年、5年の契約更新をして、なおかつ今回、大規模更新という时期的なものもあって、今年2月、当初予算のときにその方向性などを示していただいた。そのときに、更新をする際にも競争性を保っているような業者を選定すべきという私の意見は取り入れていただいたと思うが、当初予算を聞いたときに、150億円という見直しをするということについて少し違和感を覚えた。それはなぜかという、1年前のこの場で私が申し上げたところで、根本的な見直しがまず必要ではないか。つまり、根本的な見直しというのは当初は400億円、設備更新で150億円、維持管理で十数億円という形の大規模な事業の部分で、本当</p>	<p>海水淡水化は渇水のとときに物すごく活躍するが、それ以外にも、水がふんだんにあるときでも海水淡水化センターを動かさないと構成団体の皆様にお約束の量を配ることができない。また、260万人都市圏の4割をとということを監査委員が決算審査意見の中でおっしゃったが、その水を作っている牛頸浄水場の稼働率は約9割である。ここのメンテナンスなども、牛頸浄水場を生産調整しながら、海水淡水化センターを使いながらやっている。そういうこともある。それと、先ほど申し上げたとおり川などでトラブルがあったとき、濁ったり、油が流出したり、いろんな事情で取水できないことがある、そういう調整などをひっくるめて、渇水期以外にも海水淡水化なしでは都市圏は成立しない。そういう状況にある。</p> <p>ただ、そういう大事な施設だからこそ、コストカットは大事だと思っているし、今回、今までより少し突っ込んだお話をさせていただいているが、2月議会でお話したように、五ヶ山の完成をもって維持管理の時代に入ってきているので、ここら辺をひっくるめて、分かりやすく御説明したいと思っている。</p> <p>長い説明、答弁になってしまい、昨日、議長とお話しした簡潔にというところに若干逆行して申し訳なかったが、大事なことなので御容赦願いたい。</p>

質疑・意見	答弁
<p>に今ある海水浸透膜がいいのか、もっと言えば、当初に検討された電解質の部分とか、いろんな部分、この根本をまず検討する。いろんなことを比較しながら、海水淡水化は必要だが、在り方自体はもっと考えていいのではないかという根本的なところがまずあって、それからこの設備更新の方向性があるべきではないかと思う。</p> <p>今技術革新が進んで、いろんな方法が安くなっている可能性があるというところをもしあれば示していただきたい。そういうふうに関後検討していただいて、教えてほしい。</p> <p>それから、多分これから、今言われている技術革新の中で、コストカットをするためにRO膜の検討とか、いろんな形の検討をされていると思うが、やはり議論の中に出てくるのは電力の問題とか、人員配置の問題とか、いろんな問題が出てくると思うので、もし可能であれば、来年度の予算の時期でいいので、そういったところのコストカットをするような方向性を皆さんに示していただいて、できるだけ必要だけど高いというイメージを一新してほしいと思う。その要望を踏まえて、何か意見があれば教えてほしい。</p>	